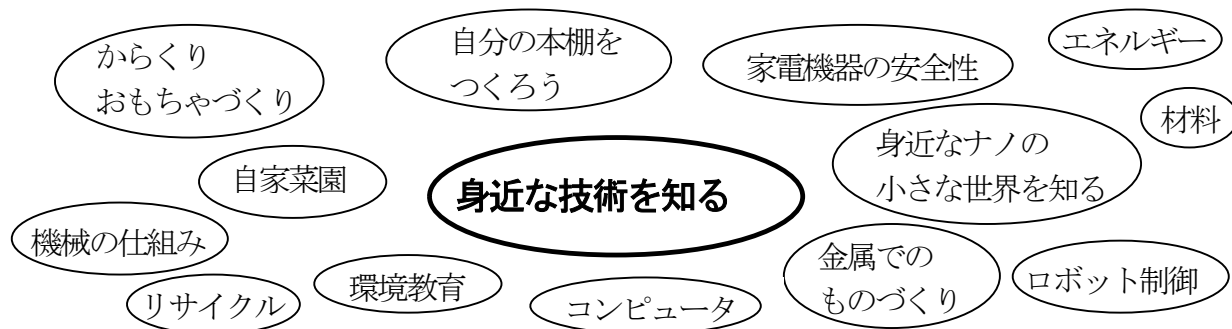


専門領域『技術』の概要

人類は、手を自由に操り、モノをつくることによって頭脳を発達させて、今日の文化を築いてきました。また「ハイテク社会」の到来の下でその土台となる現代技術の素養も現代人には求められるようになっていきます。専門領域「技術」では、単にモノをつくるものづくりだけでなく、今日の「ハイテク」社会や環境問題にも対応できる創造性をもち、教育現場で実践的に指導できる教員の養成を目指しています。具体的には、

- ①自然からの素材を加工し、あるいは、それらの持つ法則を応用して目的とする有用物を創意工夫して作り上げる技能や感性を育て、技術的創造性を養う。
- ②環境問題、情報化など、私たちの生活や社会に大きな影響を与え、その在り方を規制する要因である技術（例えば「エネルギー変換」「情報」「生物育成」）に関して、的確な認識にもとづいて公正に判断できる能力を養う。
- ③「働くこと」に対する適切なものの見方を育て、このことを通して児童生徒のキャリア発達を促す。



取得可能免許：小学校教員免許，中学校教員免許（技術）など

担当教員

氏 名	担 当	主 な 研 究 テ ー マ
鬼藤 明仁	技術科教育 栽培	・「技術」，「情報」の学習指導方法論，教材開発 ・ものづくりにおける生徒の動機づけに関する研究
小林 大介	木材加工	・木材加工教育の教材・教具開発 ・木材と人との係わりに関する感性科学的研究
坂本 智	機械 金属加工	・環境に優しい加工法や新しい精密加工法の開発 ・新しい工具や「ものづくり」に関する研究
北川 晃	電気・情報	・電磁波可視化シミュレーションに関する研究 ・電子回路の計測制御に関する教材開発

(注) 主な研究テーマはあくまで例示です。学生の希望により、卒業研究等は柔軟に対応します。教員志望者は誰でも受け入れます。

◆学生の声その1

最初はおもしろそうだなと思って入ってみた技術科でしたが、人数が少なく、また他の人が推薦入試で入ってきた人ばかりですごく不安でした。しかし、人数が少ない分、生徒同士、また生徒と教師・先輩との仲がとてよくなっていき、とても安心しました。また授業の内容も座学ばかりではなく、実習が多いので、とても楽しいものばかりでした。活動的な授業が好きな人には、ぜひ技術科をおすすめします。

◆学生の声その2

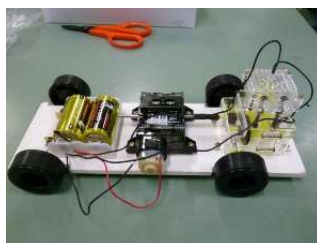
「ものづくり」に興味があり、私は技術科に進みました。中学校の技術の授業が楽しくて、技術が好きになりました。その時、「技術の授業を教えたい」と思ったのです。それが今ある自分であり、より深い知識を得るために、日々技術科での実習を頑張っています。みんなの中にも、私と同じような考えを持っている方がいると思います。やっぱり自分の考えを貫くべきだと思います。技術科では、普通に生活しては味わえない授業ばかりなので、すごく楽しいと私は思いますよ。技術科は、木材加工、金属加工、栽培学など、主に作業を中心とした授業になります。「がっつり技術」というイメージを持たれる方もいますが、教員との距離が近いのですごく密に、少人数ということもありますが濃く学べると思います。



キーホルダの製作
(金属加工)



作物の収穫(生物育
成)



エンジン模型の製作
(機械)



本棚の製作(木材加工)

授業科目(中学校1種取得の場合)

授業科目区分	授業科目	履修年次	単位数	
			必修	選択
教科の指導法に関する科目	中等教科教育法(技術Ⅰ)	2~4	2	
	中等教科教育法(技術Ⅱ)	2~4	2	
	中等教科教育法(技術Ⅲ)	3~4	2	
	中等教科教育法(技術Ⅳ)	3~4	2	
材料加工 (実習を含む)	木材加工学及び実習Ⅰ	2~4	2	
	木材加工学及び実習Ⅱ	3~4		1
	木材材料学	3~4		2
	木材加工学演習	3		2
	金属加工学及び実習	2~4	2	
機械・電気 (実習を含む)	機械通論及び実習	3~4	2	
	機械基礎	3~4		2
	機械基礎演習	3		2
	基礎電気学及び実習	2~4	2	
	電気基礎	3~4		2
	電気基礎演習	3		2
生物育成	栽培学及び実習	2	2	
情報とコンピュータ	情報基礎及び実習	2~4	1	



ロボット制御(電気)



きゅうりの栽培(生物育成)